

緊急消防援助隊情報

令和4年度中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練の実施結果について

広域応援室・徳島県実行委員会

令和4年度中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練は、「開催県及び開催地の受援体制の強化」をコンセプトに、緊急消防援助隊の出動体制及び自衛隊、海上保安庁、警察、DMAT等の関係機関を含めた連携活動能力の向上をはじめ、総合的な災害対応能力の向上を図ることを目的とし、次のとおり実施しました。

1. 実施日

令和4年10月29日（土）・30日（日）

2. 実施場所

徳島県徳島市、阿南市、北島町、松茂町、那賀町

3. 訓練想定

令和4年10月29日（土）午前9時頃、四国沖を震源とする大規模地震が発生し、徳島県において最大震度6弱が観測された。阿南市及び板野郡では建物倒壊や土砂崩れ、橋梁崩落等の被害が多数発生するとともに、沿岸部には津波が押し寄せ甚大な被害が発生している。

4. 実施内容

(1) 消防応援活動調整本部等設置運営訓練

想定地震発生後に、徳島県庁に災害対策本部及び消防応援活動調整本部、阿南市消防本部及び板野東部消防組合消防本部に指揮本部及び指揮支援本部、徳島県消防防災航空隊事務所に航空指揮本部及び航空指揮支援本部を設置し、新型コロナウイルス感染症対策を講じた環境下で、応援要請等に係る情報伝達、受援調整及び緊急消防援助隊の部隊活動調整等について、ブラインド型のロールプレイング方式により、各会場が連動した図上訓練を実施した。

《今後の課題等》

消防応援活動調整本部内の構成員間の連携の必要性を改めて感じたほか、個々の職員が緊急消防援助隊の制度を理解し、応援要請、受援の手順を習熟する必要がある。



消防応援活動調整本部等設置運営訓練（29日）徳島県庁

(2) 部隊参集・災害即応訓練

ヘリコプターによる指揮支援部隊の参集を実施するとともに、徳島県内2箇所を進出拠点とし、受援消防本部による受援対応訓練を実施した。

部隊参集後、航空隊、県大隊、県内消防広域応援隊、地元消防団が連携した各種災害即応訓練を実施したほか、阿南市メイン会場で行った大規模土砂災害救助訓練では、県大隊の交代を想定した訓練を実施した。



津波孤立者・漂流者救助訓練（29日）辰巳工業団地

《今後の課題等》

同一訓練サイトにおいて4県大隊の交代を実施したが、訓練サイトのスペースに限りがあることから、県大隊は別に設定した経由地で待機し、訓練サイトでの引継ぎは指揮隊のみとしたことにより、スムーズに交代を行うことができた。

県大隊の交代については、活動を切れ間なく実施す



るため、引継ぎ場所、引継ぎに参加する隊及び引継ぎ方法等を、災害種別や災害現場の立地・広さ等に応じて都度検討する必要があるため、事前に多くのパターンを想定しておく必要があると感じた。



大規模土砂災害救助訓練（29日）県大隊交代の引継ぎ

（3）部隊運用訓練

指揮支援部隊長の部隊統制のもと、地震被害を想定した各種訓練を阿南市メイン会場及びサテライト会場で実施した。ドローンを活用した映像伝送訓練を実施したほか、水陸両用車、重機等、多数の消防庁無償使用車両の災害対応力について検証するとともに、関係機関が連携した各種災害想定訓練を実施した。

メイン会場では、大規模土砂災害、座屈中高層建物、毒劇物漏洩事故に対する訓練を実施するとともに、3訓練全ての傷病者を多数傷病者対応訓練とし、各県大隊の救急中隊が都道府県大隊とは別に一元的に救急活動を行った。具体的には、現地合同調整所、現場指揮本部、救急指揮所の役割を明確化し、確実な情報共有を実施するとともに、応急救護所の運営、救急搬送及び活動前線からの医療、救急隊の派遣要請への円滑な対応を主眼に、DMA T等の医療機関と連携し実施した。



大規模土砂災害救助訓練（30日）ドローンによる空撮



多数傷病者対応訓練（30日）橋港小勝緑地

サテライト会場では、各県大隊及び警察等の関係機関による連携活動を実施するとともに、自衛隊ヘリ及び海上保安庁巡視船による部隊輸送を実施した。また、ヘリベース及びフォワードベースを設置し、複数機体による安全、円滑な航空機運用を実施した。

《今後の課題等》

指揮支援隊の活動統制のもと、複数の県大隊及び航空小隊が活動を実施するにあたり、各波無線CHを実施計画で指定した。しかしながら、実災害時には地域ブロック外からも活動に入り、主運用波等の調整がより複雑になると予想される。そのため、2日目の訓練に関する無線統制を計画では定めず、1日目に実施する活動調整会議において、指揮支援部隊を主として調整を実施することで、より実践に即した訓練になると考える。

多数傷病者対応訓練では、前線において救急隊、DMA Tの不在による処置の遅れが多数発生した。救急隊及びDMA Tの増援が見込めない状況を想定し、今後は救急隊以外の小隊に救命士を編成したり、救急隊以外の小隊において迅速なトリアージや応急処置を実施するなど、傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送を行う必要があると感じた。

また、航空指揮本部で各航空小隊の活動を管理するため、ヘリ動態管理システムのメッセージ機能の活用を図ったが、航空消防活動の負担になる可能性もあったと思慮される。航空機の安全運用に関し、ヘリ動態管理システムは非常に有用なツールであるため、より効率的・効果的な運用方法について検討していく必要があると感じた。



フォワードベース設置運営訓練（30日）わじき工業団地

（４）後方支援活動訓練

支援車Ⅰ型、拠点機能形成車等を活用したほか、新型コロナウイルス感染症対策のため、後方支援活動訓練会場を3箇所分散し、感染予防を考慮した訓練を実施した。

《今後の課題等》

訓練での実施は困難であると考えが、宿営場所のみの後方支援にとどまらず、災害活動が長時間になった場合の活動現場における後方支援活動も検証する必要があると感じた。

5. おわりに

今回の訓練は、より実践的な訓練とするため、自然地形及び実際の施設を活用し、徳島県の実情及び近年の実災害を基に訓練想定を設定するとともに、重点推進事項を踏まえて計画しました。

本訓練において、緊急消防援助隊の受援、部隊運用、関係機関との連携の強化や受援計画の見直し等、徳島県の実災害への対応を検証する良い機会となり、大変有意義な訓練となりました。

今後、今回の訓練で得た成果、課題等を踏まえ、緊急消防援助隊の応援・受援体制の更なる充実強化に努めて参ります。

最後に、本訓練開催に際しまして多大な御協力を賜りました中国・四国ブロック等各県、参加各消防機関及び関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。



大規模土砂災害救助訓練（30日）中型水陸両用車



座屈中高層建物救助訓練（30日）橘港小勝緑地



消防防災ヘリコプターによる救助訓練（30日）

問合せ先

消防庁国民保護・防災部防災課広域応援室
TEL: 03-5253-7569（直通）